

I. はじめに

東京女子医科大学（以下、本学）では、2011年5月より研究業績データベース（以下、業績DB）の構築を開始し、同年12月28日に大学のウェブサイトで学外へ公開した。その際、図書館内に事務局が設置され、図書館の新たな仕事として業績DBの運用を担うこととなった。導入から学外公開を経て、現在に至るまでを報告する。

II. 本学業績DBの紹介

2011年度に構築を開始した本学業績DB¹⁾は、2014年の時点で、175講座（部署）、1,400人あまりの教員による約5万件の業績が登録され、講座業績は2008年度以降、個人の業績は年度に関わりなく公開している。株式会社エデュースによるパッケージソフト「研究業績プロ」に、後述の様々なカスタマイズを加えて現在に至っている。本学業績DBの大きな特色は以下の2点である。

①講座業績の表示

本学の業績DBは講座単位のページを年度で公開することを基本とした。講座の業績リストを前面に出し、個人の業績は講座ページに表示された所属者名から個人の

ページへリンクして表示する。講座ページには各年度の業績数や取得研究費、講座概要などの項目を設けた。業績は学術雑誌掲載の論文、著書、学会発表に分け、論文はさらに原著・総説等に分けて表示するようにした。講座の業績数の集計もこれらの区分に基づいた。(図 1)

常勤教員のいる部署は、助教以上の所属教員の氏名を表示した。また、本学は医療施設を複数併設しており、学会発表や論文執筆を行う教員以外のメディカルスタッフが所属する部署も多い。これらの部署も業績を公開できるようにした。

②教員による入力

データ入力は教員本人による入力を基本とし、複数著者の場合、第一著者による入力を原則としている。ただし、講座の担当者・事務職員による代行入力も可とした。教員以外の職種の職員については希望に応じてログイン ID を作成し、入力できるようにした。

ログイン ID には個人用と講座用があり、ログイン画面は大学イントラネットページや学内向け図書館ページからリンクしている。個人用 ID では業績のほか学歴、職歴等の個人情報、取得特許や教育活動といった幅広い内容が入力可能である。講座用 ID では業績と講座概要などの講座ページ用データが入力可能である。何れの場合

合も業績データ入力時には「紐づけ」作業を行う。「紐づけ」とは、各業績に対して著者名・共著者名とそれぞれの所属講座を選択して関連付けることで、これにより業績が各個人および各講座のページに反映されるようになっている。この機能については関西医科大学の井手の論文が詳しい²⁾。

Ⅲ. 導入の経緯

1. 業績 DB 導入以前

業績 DB 導入以前、研究業績に関する業務は学会室が全面的に担当していた。学会室は東京女子医科大学学会の事務局業務を行う部署で、組織上の変遷を経て現在は図書館の下部組織となっている。本学では、1988 年より学内の研究業績を 1 年ごとにまとめ、年刊の研究業績集として冊子体で発行していた。発行にあたり、学会室では研究業績データを各部署より収集し、編集を行っていた。しかし、データの収集および確認の作業に時間がかかり、定期的な刊行を維持できなくなるのではという危機感があった。そのため、作業量の軽減を目指し、業績データ収集のオンライン化を模索していた。

2. 導入決定まで

2010年6月に「学校教育法施行規則等の一部改正」が文部科学省より公布され、学校教育法施行規則第172条の2第1項第3号により、大学教員の業績の公表が義務付けられた³⁾。公表手段は実質的にインターネットが推奨されている。この頃すでに、研究業績集の発行が遅れ気味となっていたため、現行の業績公表方法を見直すことが喫緊の課題となった。2011年4月1日の施行を前に、何らかのシステムを導入して公表までの時間を短縮し、検索可能で誰もがアクセスできるWeb公開に移行したいという意識が学内で共有され急速に具体化した。Web公開可能なシステムの導入が検討され、2011年2月に「研究業績プロ」を導入することが決定した。この際、業績DBの運用を図書館が担当し、サーバも図書館内に設置することとなった。

3. 図書館と研究業績

2007年に図書館事業として機関リポジトリの立ち上げを構想した頃は、学会室が業績収集方法の刷新を模索していた時期と重なる。一時は機関リポジトリと業績DBをひとつのシステムで実現できないかと、共同で検討していた。結局、別々に考えた方が合理的との結論に至り、

リポジトリが 2009 年に立ち上がったが、いずれは大学の業績データと連携したいとの指向があった。こうした経緯が下地となり、図書館が業績収集・公表業務を学会室から引き継ぐ際にも、新システムの選定や運用計画について図書館からの提案が受け入れられることとなった。

IV. 導入から公開まで

1. 作業部会の設置

本学には、自己点検・評価審議委員会という会議体がある。この委員会は、教員組織と法人各部門の事務組織から成っている。業績 DB の導入に際し、委員会内に業績データベース作業部会が作られ、委員会の責任の下に業績の収集・公表が行なわれることが明確になった。委員の所属部署は図書館のほか、人事部、総務部、学務部、研究支援部、情報システム部等から各 1 名であり、作業部会長は教員が就任した。そして、委員会の規程に作業部会について加える際に、図書館に編集事務局を置くことを明文化するよう働きかけた。図書館が担当部署であることを明示し、主体的に動ける根拠とするためである。

作業部会の業務は、本学に最適な業績公表のあり方を検討し、実施し、業績の収集・公表を継続的に維持して

いくための仕組みを作ることである。それにはリーダーシップを発揮して具体化していく必要があり、活動の根拠があることは重要であった。

図書館内でも、筆者を含む担当者数名で委員会を作り、本務の傍ら対応することとなった。

2. 機器の設置

大学として業績 DB の導入が決定し、2011 年 3 月には図書館事務室内にサーバを設置する予定が組まれた。

しかし、3 月 11 日に東日本大震災が発生し、図書館は製本雑誌書架の大半が倒壊する被害に見舞われた。また、校舎の耐震状況の確認や補強工事等もあり、閉館を余儀なくされたため、業績 DB サーバの設置作業を行える状況ではなくなった。5 月に入り、利用可能となった部分のみで一部開館を開始した。ここでようやく業績 DB サーバを設置、システムの基本部分のインストールまでの作業を終了した。

3. 仕様決定まで

サーバ設置が 2 か月遅れで行われたことに伴い、6 月 15 日によりやうく第 1 回目の作業部会が開かれた。学校教育法施行規則の改正をうけて、9 月入力開始、年内の公

開という厳しいスケジュールを決定した。また、業績 DB の基礎となる公開ページの組織構造や、含める職員の範囲、入力データ範囲、人事データの扱いなども決定した。入力項目や画面レイアウトなど仕様の細部や具体的な作業日程などは図書館内委員会で検討課題を整理し、作業部会長の確認を得た後に主たる関係部署に提示して回答をもらい、必要に応じて作業部会を招集して、全関係部署に承認を取ったうえで決定事項とする形をとった。

4. データ移行

2011年5月の段階で、学会室は2009年分の業績データ収集を終了していた。8月、図書館が学会室の作業用データベースよりおよそ8,500件の2009年分データの提供を受け、業績DBへ移行した。9月、2010年分の業績についても学会室提出用ファイルを作成し終わっている部署から提出いただき、図書館で一括登録を行った。この移行作業での登録データは、著者・共著者および所属講座の「紐づけ」がされないため、その部分は実際に入力可能となってから行うこととした。

5. 説明会

業績データ入力マニュアルを作成し、9月より入力説

明会を開催した。河田町キャンパスで6回，東医療センターで3回，八千代医療センターで3回，株式会社エデュースより派遣された担当者1名と，図書館の担当者3名が説明を行った。また，大東キャンパスでは図書館の大東分室担当司書が河田町キャンパスでの説明会受講後，キャンパスの教職員に向けて説明会を開いた。また，希望があった部署には図書館の担当者が出向いて個別説明会を行った。説明会を受講した教職員は2010年度データの入力および図書館が移行・登録作業を行った2009年・2010年のデータの著者・共著者・所属講座との「紐づけ」作業を開始した。11月には講座用画面の設定が終了し，講座用IDでの入力が始まった。

6. 学外公開

2011年12月はじめから，公開用ページの画面設定が始まった。不具合の修正や表示の検討を経て12月20日に公開用ページのレイアウトが決定し，22日に学内向けのテスト公開を行った。公開に際し，大学の広報担当が業績DB用のアイコンを作成した。12月28日に大学の「情報公開」ページにアイコンを設置し，2009・2010年度の業績を学外に公開した（図2）。

V. 仕様の継続的な検討と運用

2011 年内の公開は無事達成されたが、導入当初から検討していたものの公開までに実現できなかった機能があった。また、システムが実際に動き始めてから事務局として気づいた点や利用者からの要望なども検討し、優先順位をつけて仕様の改善を図っていった。以下に現在までに改善した点を述べる。

1. 「研究業績基準」の改訂

「研究業績基準」は、本学の業績として登録すべき学術情報の基準を示すものとして研究業績集とともに継承されてきた。業績 DB への入力にあたり、いくつかの改訂を加えた。大きな変更点は、次の 2 点である。第一は、現職員は、本学以外での所属の業績も、個人業績としてのみであれば登録可能としたことである。これにより本学にどのような実績を持った教員がいるかという観点で情報公開できるようになった。これは、データベース化によるメリットのひとつと思われる。第二に、従来の年単位（1 月～12 月）から年度単位（4 月～3 月）へと単位を変えたことである。また、電子版の扱いや、業績の区分名等を業績 DB に合わせるなどの調整も行い、2012

年 3 月に改訂版を作成し、業績 DB のログインページから参照できるようにした。

2. 公開ページの改良

1) Corresponding Author（責任著者）の表示

公開時、講座の当該年度業績数一覧表の学術雑誌欄は筆頭著者と共著者の 2 種で集計を行っていた。これに対し教員より Corresponding Author は単なる共著者とは区別すべきだとの指摘があり、2012 年 7 月に集計欄に追加した。

2) 入力データの翌日公開

当初は毎年 7 月 1 日に前年度業績を公開する予定であったが、入力データはすぐに公開したいという希望があり、2012 年 7 月 1 日以降は入力データを夜間処理により翌日公開ページに反映するよう変更した。

3. リポジトリ連携

かねてより希望していた本学学術リポジトリ Twinkle との連携を 2012 年 4 月より開始した。教員や講座担当者が業績 DB に該当論文の著者最終稿をアップロードすると、事務局でそのファイルをチェックし、必要な著作権処理の後、Twinkle で公開するという、業績データの

入力から本文公開までの流れを作った。また、リポジトリ登録されている業績には Twinkle アイコンを表示させ、本文まで公開できる業績 DB を実現した。リポジトリ連携の具体的な方法は既出の野田の論文⁴⁾を参照されたい。

4. 入力作業の軽減

1) データ一括登録

外部文献データベースを業績 DB の入力に利用したい、というのは導入当初からの課題であった。2012 年 3 月、医中誌 Web と PubMed の検索結果および EndNote のファイルからデータの一括登録ができる機能を備えた。一括登録は個人の責任で行うこととし、講座 ID からは利用できない。また、データの登録後に講座・共著者への「紐づけ」作業が必要となる。

2) 講座概要の自動複写

講座ページは年度ごとに更新されるが、講座概要は大きな変更がない場合も多い。そのため、4 月 1 日に前年度の講座概要の内容を自動的に新年度の概要としてコピーする機能をもたせ、2014 年度分より実行した。すでに新しい概要が入力されていればそちらが優先される。

5. ログイン ID の統合

業績 DB は独自の ID・パスワードを使用していたが、2013 年 9 月に学内における統合認証システム開通に合わせて連携を行った。これにより学内連絡先ツールおよび図書館ポータルサイト MyLibrary と共通の ID・パスワードで業績 DB を利用できるようになった。同時に、業績 DB の人事データ更新が自動更新へと変更され、人事担当者の負担も一部軽減できた。

6. データの質の維持

1) 重複チェック機能強化

業績登録の際には、入力しようとしているデータがすでに登録済みでないか予め検索するよう、メッセージを表示して注意を促している。2014 年 3 月、登録にあたって行う検索の結果を別画面で立ち上げ、利用しやすくした。さらに新規データを登録する場合、登録ボタンをクリックするとデータベース内の検索を行い、重複入力を防ぐメッセージとともに重複候補を表示するようになった。

(図 3)

2) ISSN・DOI の必須化

さまざまな資料が業績として登録されるが、2014 年 3 月には ISSN, DOI を必須とし、それらを備えた雑誌や論文を研究業績として登録するよう注意を促すかたちと

した。

7. 評価用リスト

講座単位の業績数とその裏付けとなる業績リストが帳票で出力できる機能を付加した。2014年初頭には自己点検・評価用ツールとして出力し、イントラネットで閲覧できるようにした。

8. 広報

入力促進のため、いままで学内の広報誌や医局へのチラシの配布などを行っていたが、これに加え、業績DBに各部局の連絡用メールアドレスを登録し、一斉メール送信を行う機能をもたせた。

VI. 今後の課題

当面の課題としてデータの質の確保、入力の促進などがあげられる。

業績DBは学内外の評価に関係するため、質の確保が不可欠である。なるべく労力をかけず正確なデータ入力が可能になるよう改善を続け、研究者の入力意欲を高めるべく努めている。その方策の一つとして、データ入力

時に医中誌 Web と PubMed を検索し、検索結果を入力画面に反映させられるようカスタマイズを進めており、2014 年度中に可能となる予定である。

ほかにも講座ページをさらに充実させるため、業績としては入力できない社会的活動や受賞なども個人ページのみではなく講座ページにも表示可能なようにカスタマイズ予定である。また、導入当初より検討課題となっていたが未だ手をつけられていないのが英語版である。これに関しては、表記方法など導入前の準備も必要であり、学内関連部署との協議を進めていかなければならない。

VII. おわりに

大学全体に関わる業績 DB の事務局が図書館に置かれたことで、図書館が学内他部署と連携し、主体的に活動することを求められた。これに関してはまだ手探りの部分も多い。しかし、今まで以上に学内他部署と協働しており、それなりに図書館の存在を印象づけているのではないかと思う。教員評価という大学組織にとってひとつの大きな課題の中で、教員にも支持されるデータベース構築を続けていくため、今後とも図書館業務で培ったス

キルを活かしつつ，地道に努力していきたい。

本稿は，2014年11月20日に聖マリアンナ医科大学で行われた第21回日本医学図書館研究会での発表を加筆修正したものである。


参考文献

- 1) 東京女子医科大学研究業績データベース [Internet].
<http://gyoseki.twmu.ac.jp/twmhp/KgApp> [accessed 2015-2-16]
- 2) 井出貴広，山田久夫. 関西医科大学における研究業績データベース構築事例. 医学図書館. 2009;56(2):145-50.
- 3) 文部科学省. 学校教育法施行規則等の一部を改正する省令の施行について (通知) . [Internet].
http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/1294750.htm [accessed 2015-02-16]
- 4) 野田久愛. 東京女子医科大学学術リポジトリ Twinkle の構築と運用：公開4年を迎えて. 医学図書館. 2013; 60(3):257-61.

図 1 東京女子医科大学研究業績データベース 公開ページ

図 2 研究業績データベースアイコンより公開ページへのリンク

図 3 新規登録時の重複確認メッセージ



東京女子医科大学
Tokyo Women's Medical University

T 162-0666
東京都新宿区河田町8-1
Tel: 03-3353-8111 (大代表)

[TOPページ](#)

≪≪ 前 2012年度 2013年度 2014年度

第二生理学

概要

当該年度研究業績一覧表

教授: 三谷 昌平
講師: 機 建二郎
助教: 堀 沙耶香
吉名 依和子
岩田 信
志摩 真司
出嶋 克史
本橋 智子

Keywords

学術雑誌

当該年度の研究教員状況

学会発表

■ 概要

教室の紹介

基礎医学の中で生理学は、重要な学際領域です。第二生理学教室は、基礎医学と生理学の境界領域を研究する研究を行う教室の特徴です。研究分野としての基礎医学的・倫理的な問題を伴うことにより、分子と生命現象との

5. 平成25年度科学研究費補助金(若手研究(B)) (研究課題番号:25830018)

研究課題: 逃避行動を規定する神経回路発生の分子機構の解析 (研究代表者: 堀 沙耶香)

研究補助金: 600,000円 (代表)

6. ナショナルバイオリネースプロジェクト

研究課題: 線虫欠変異体の収集・保存・提供 (研究代表者: 三谷 昌平)

研究補助金: 86,807,000円 (代表)

7. 共同研究

研究課題: 遺伝子機能解析研究から得られた、疾病に関わる蛋白質を制御する新規機能性物質の探索 (研究代表者: 三谷 昌平)

研究補助金: 2,200,000円 (代表)

[ページの先頭へ](#)

■ 当該年度研究業績一覧表

学術雑誌		著書				学会発表				その他発表			
		和文		英文		国内		国際					
筆頭	Corresponding Author	共著	筆頭	Corresponding Author	共著	筆頭	共著	筆頭	共著	筆頭	共著		
0	0	0	3	3	5	0	0	0	0	0	0	0	0

[ページの先頭へ](#)

■ 学術雑誌

原著

1. Tsai HY, Chen CC, Dong D Jr, Moresco JJ, Chaves DA, Mitani S, Yates JR 3rd, Tsai MD, Mello CC.: A Ribonuclease Coordinates siRNA Amplification and mRNA Cleavage during RNAi. Cell 160 (3) :407-419, 2015.1
2. Kiuchi T, Shibata Y, Kim HS, Kubota Y, Yoshina S, Mitani S and Nishiwaki K: The BED finger domain protein MG-39 halts migration of distal tip cells in Caenorhabditis elegans. Developmental biology 397 :151-161, 2015.1
3. Akhoyshi Sayaka, Nomura Kazuko H, Dejima Katsufumi, Murata Daisuke, Mitsuda Ayako, Kanaki Nanko, Takeki Tetsuro, Mihara Hiroyuki, Nagashi Takayuki, Furukawa



三谷 昌平 医学部 医学科 第二生理学 主任教授

■ 著書

1. 部分執筆 Developmental Genetics of Caenorhabditis elegans 『Brenner's Encyclopedia of Genetics 2nd edition』 2013.4
2. 部分執筆 生物機能モデルとシステム生物学の統合 『第3巻 細胞周期以外のモデル生物』 第4巻 線虫 2011.2
3. 部分執筆 WormBase 線虫のゲノム統合データベース 細胞工学別冊 バイオリネースデータベース活用術 2009.7
4. 部分執筆 線虫 機能ゲノミクスのためのモデル生物 細胞工学別冊 バイオリネースデータベース活用術 2009.7
5. 部分執筆 モデル生物を利用した遺伝子機能解析 線虫 実験医学別冊 ゲノム研究実験ハンドブック 2009.10
6. 部分執筆 線虫ゲノムの遺伝子機能解析 ポストゲノミクスのゲノム科学4 ゲノムから個体へ 生命システムの理解に向けて 2001.6

■ 学術雑誌

1. 原著 Pi3P phosphatase activity is required for autophagosome maturation and autolysosome formation. 2014.8
2. 原著 Methods for single/low-copy integration by ultraviolet and trimethylsilylation treatment in Caenorhabditis elegans. 2014.8
3. 原著 The homologous carboxyl-terminal domains of microtubule-associated protein 2 and Tau induce neuronal dysfunction and have differential fates in the evolution of neurofibrillary tangles. 2014.2
4. 原著 Sensory Neuron Fates Are Distinguished by a Transcriptional Switch that Regulates Dendrite Branch Stabilization. 2013.7
5. 原著 Characterization of PUD-1 and PUD-2, Two Proteins Up-Regulated in a Long-Lived daf-2 Mutant. 2013.6
6. 原著 Arh/APL-8 functions in apoptotic cell removal by mediating phagocytosome formation in Caenorhabditis elegans. 2013.5
7. 原著 Mitochondria-type GPAT is required for mitochondrial fusion. 2013.5
8. 原著 Inactivation of Caenorhabditis elegans aminocapitase DNPP-1 restores endocytic sorting and recycling in fat-1 mutants. 2013.4
9. 原著 A Caenorhabditis elegans Insulin-like Peptide, INS-17.1a: Physiological Function and Expression Pattern. 2012.11
10. 原著 Large scale screening for targeted knockouts in the C. elegans genome. 2012.11

[全件表示\(109件\)](#)

■ 学会発表

1. RNA品質管理と小胞体品質管理を結ぶインターフェイスの解析(口頭発表, 特別招待講演等) 2013/06/01
2. Combination of optogenetics and reverse genetics: novel behavior screening for regulators of neural differentiation (ポスター, 一般) 2013/06
3. RNA品質管理を介した小胞体品質管理(口頭発表, 一般) 2012/12/01
4. Nonsense-mediated RNA decay is required for the endoplasmic reticulum homeostasis (口頭発表, シンポジウム・ワークショップ・パネルディスカッション等) 2012/12/01
5. Novel function of bHLH transcriptional factor lin-52 in avoidance circuit in C. elegans (口頭発表, シンポジウム・ワークショップ・パネルディスカッション等) 2012/12
6. RNA 監査機構は小胞体機能の恒常性維持に必要である(ポスター, 一般) 2012/11/01
7. RNA Surveillance is Required for Endoplasmic Reticulum Homeostasis (口頭発表, シンポジウム・ワークショップ・パネルディスカッション等) 2012/09/01
8. Novel function of bHLH transcriptional factor lin-52 in escape/avoidance circuit in C. elegans (ポスター, 一般) 2012/09
9. 次世代シーケンサーを用いた新規MODの遺伝子の解析(口頭発表, 一般) 2012/06/18
10. LERP(線虫): 遺伝子機能解析のための欠変異体の収集・保存・提供(ポスター) 2011/12

[全件表示\(94件\)](#)

■ 主要学科目

生理学

■ 資格・免許

1. 1984/05/24 医師登録

■ 職務上の実績

● 実務の経験を有する者についての特記事項

1. 1991/04/01～ 基礎医学教育(生理学, 分子遺伝学)

● その他職務上特記すべき事項

1. 2002/07/01～ 文部科学省ナショナルバイオリネースプロジェクト 中核機関研究代表者

■ 研究課題・受託研究・科研究

1. 2007/04～ ナショナルバイオリネースプロジェクト 実験動物「線虫」 その他の補助金・助成金
2. 2009/07～2010/06 統合医科学研究所設立へ向けてのゲノム医科学研究者支援プロジェクト その他の補助金・助成金

■ 委員会・協会等

1. 2003/04/01～ 国立遺伝学研究所生物遺伝学委員会 委員

図 1

教員の研究業績に関しましては、研究業績データベースをご参照ください



東京女子医科大学 Tokyo Women's Medical University 〒162-8666 東京都新宿区河田町8-1 Tel: 03-3353-8111 (大代表)

キーワード検索 検索

●講座キーワード検索 ○個人キーワード検索 ○氏名検索

東京女子医科大学

医学部 **医学科** 看護学部 看護学科

- 医学科(東京女子医科大学病院)
- 医学科(東医療センター)
- 医学科(附属八千代医療センター)
- 医学科(附属青山病院)
- 医学科(附属成人医学センター)
- 医学科(附属膠原病リウマチ痛風センター)
- 医学科(附属東洋医学研究所)
- 医学科(附属女性生涯健康センター)
- 医学科(附属青山女性医療研究所)
- 医学科(附属遺伝子医療センター)

東京女子医科大学大学院

医学研究科 看護学研究科

東京女子医科大学 Tokyo Women's Medical University

医学部 医学科 講座一覧

- 解剖学
- 解剖学・発生生物学
- 第一生理学
- 第二生理学
- 生化学
- 薬理学
- 第一病理学
- 第二病理学
- 微生物学免疫学
- 国際環境・熱帯医学
- 衛生学公衆衛生学(一)
- 衛生学公衆衛生学(二)
- 法医学
- 医学教育学
- 外国語文化
- 英語
- 生物学
- 化学
- 物理学
- 日本語学
- 医療・病院管理学
- 学生健康管理センター

図 2

研究業績プロ		学術雑誌【必須】新規登録	
◆メニュー ◆ログオフ ◆ヘルプ		Date:2015/02/17 14:50 ID:7212	
<p>表題の先頭7文字と発行年月と掲載頁が同じ業績がすでに登録されています。</p> <p>対象業績の一覧はこちら ※必ずご確認ください。</p> <p>一覧に、登録しようとしている業績と同じものがあれば新規登録する必要はありません。(一部項目が一致するのみで、同じ業績ではない場合もありますので、念入りにご確認下さい) 説明</p> <p>一覧に同じ業績がある場合、「選択」ボタンを押して、関連講座欄にはご自分の所属する講座名を、学内研究者欄にはご自分の氏名を追加登録してください。既に関連講座欄および学内研究者欄にご自分の名前などが登録されている場合は、そのまま登録ボタンを押してください。</p> <p>また、もしも上記部分以外の入力内容に誤りがあり、部分的に修正する場合は、先に登録した人(研究者)に修正内容を連絡の上、修正をお願いいたします(画面一番下部分に、最終入力者名もしくは講座名が表示されています)</p> <p>一覧に同じ業績が無い場合は、画面下部の「登録」ボタンを押して新規登録を行ってください。</p> <p>※新規登録の際は、重複を避けるため必ず検索してください。</p>			
表題	<input type="text"/>	部分文字列で検索することができます。	<input type="button" value="業績検索"/> <input type="button" value="検索条件クリア"/>
掲載頁	<input type="text"/>	頁が複数頁にわたる場合は、ハイフン(-)で区切って下さい。(スペースなし)	
著者・共著者名	<input type="text"/>	著者、共著者名を半角のカンマ+スペースで区切って入力して下さい。	
発行年月	西暦 <input type="text"/> 年 <input type="text"/> 月	年のみの検索もできます。	
<input type="button" value="登録"/> <input type="button" value="戻る"/>			

図 3

Publication of a research achievement database at Tokyo Women's Medical University

Tokyo Women's Medical University published a research achievement database on December 28, 2011. On the occasion of the construction of this database, it was decided that the library would be in charge of secretariat, as a new job task. The library started this work in May 2011, and their results were published in December of that year, in cooperation with the relevant departments. In this database, the public page is made up with each course unit, and researchers input their research achievements data, in principle. After 2012, the database improved its public page layout and input method. As a result of this improvement, the library hoped to enable researchers to input their data more accurately. Further improvements in the future are planned. In addition, the library is working to promote the relevant departments and more cooperative relations.

Keywords: Research Achievement Database
Libraries, Medical